

すべては大統領のために — ジョセフ・P・ケネディ 野望の結末 —

(株)日本設備工業新聞社
代表取締役社長 高倉克也

1961年1月20日、ジョン・F・ケネディが史上最年少の43歳で第35代アメリカ合衆国大統領に就任した。弟のロバートも司法長官として晴れ舞台に立った。

兄弟そろって世界最強の権力の座についたのは偶然ではない。資産家で政治的な駆け引きに熟練した父ジョセフ・P・ケネディ(1888-1969)の強力なバックアップがあったからだ。

ビジネスの世界で成功し、勇んで政界に進出したジョセフはみずから大統領になるという野心を抱いていた。だがイギリス大使を最後に失脚し、果たせなかった夢を息子たちに託して実現した。

王室のないアメリカでロイヤル・ファミリーと呼ばれたケネディ家の栄光と悲劇の発端はジョセフによって用意された。いままも生きつづけるケネディ神話の埋もれた起源を掘り起こしてみよう。

相場師として大儲け

ジョセフはアイルランド系移民の3代目としてマサチューセッツ州ボストンで生まれた。伝統的なカトリックの家系で父は港のバーの経営者から下院議員に当選して社会的地位と裕福な家庭を築く。とはいえ上流階級として君臨するイギリス系プロテスタントから不当に蔑まれていた。

名門のボストン・ラテン・スクールからハーバード大学を卒業したジョセフは州の銀行検査官となり、銀行業務や各企業の内部情報に精通する。

1913年、父が大株主であるコロンビア信託銀行がライバル銀行による乗っ取りの危機に直面すると親族や友人から大金を借りて株を買い占め、翌年25歳で全米最年少の頭取に就任する。私生活では民主党の実力者で元ボストン市長の長女ローズと結婚して名家としての名声を高めていく。

第1次世界大戦が始まると徴兵を免れるために製鉄会社の造船部門の支配人補佐となる。のちに大統領となる海軍次官補フランクリン・ルーズベルトとはこの仕事を通じて知りあった。

1919年、義父の紹介で証券会社に入り、株式の売買業務を身につけて自分でも大儲けする。ただ実態は現在のインサイダー取引にあたる内部情報を利用した利益が大半を占めていた。

大恐慌の発端となった株価の大暴落、いわゆるブラック・マンデーに際してもジョセフは機敏に行動した。直前の暴騰価格で保有株をすべて売り払って巨万の富を手にする。

相場師として彼の先見性を示す靴磨きの少年との伝説的エピソードが投資家のあいだで語り継がれている。大暴落が迫ったある日、彼の靴を磨き終えた少年は得意気に株の儲け話を始めた。情報



ジョセフ・P・ケネディ

に乏しいはずの少年まで株式投資に熱中する姿を見てバブルがまもなく弾けると予見したという。「最高の利益を狙って粘りつづけるのは愚か者のすることである」と。

ヒトラーを支持して失墜

相場師として勝ち残ったジョセフは蓄えた資産を新興の映画産業に投入する。ハリウッドに移り住み、経営不振の映画会社を次々と買収して後年「キングコング」を制作するRKOを設立。勢いに乗って「サンセット大通り」で有名なスター女優グロリア・スワンソンと浮名を流す。

1920年に制定された禁酒法の時代には密輸酒の販売にも手を出した。フランク・コストロなどマフィアの巨頭たちと組んで莫大な荒稼ぎをしたことが多くの証言で明らかになっている。

1933年に禁酒法が廃止されるとルーズベルトの息子と会社を設立してジンとスコッチの販売網を独占した。儲けはレストランやオフィスビルなど不動産に投資し、なかでもシカゴのマーチャンダイズ・マートビルはケネディ家の拠点となった。

自信を深めて政治家への転身を本格的に目論みはじめたジョセフは大統領選挙に出馬したルーズベルトを資金・人脈の両面で支援する。当選を果たしたルーズベルトは1934年、新設した証券取引委員会の初代委員長にジョセフを任命した。インサイダー取引やマフィアとの関係など黒い噂がつきまとうジョセフの抜擢に世間は激しく反発した。それでもルーズベルトは「泥棒を捕まえるためには泥棒が必要だ」と開き直ったという。

証券取引委員会では活発に活動し、予想外の成果を上げて批判を封じ込めた。政治的手腕を認められたジョセフは連邦海事委員会の委員長を経て1938年、アイルランド系として初のイギリス大使に就任する。4男5女の9人の子供をもつ大家族の父という親しみやすいイメージを演出して当初は好意的に迎えられた。当時の首相チェンバレンによるナチス・ドイツとの宥和政策を支持し、両国の関係が悪化してもヒトラー擁護の発言を繰り返して響響を買った。とりわけ新聞のインタビューで「イギリスは別に民主主義のためにナチスと戦っているのではない。ただ自己保存の戦いをし

ているのだ」と語って非難的になった。アイルランド系カトリック系として差別されたことへの反イギリス感情が噴出したのかもしれない。1940年、ジョセフは2年9カ月で辞任に追い込まれた。

夢が叶ったあとで

ホワイトハウスへの夢を絶たれたジョセフは不動産投資に励む傍ら政治的な影響力を保ちつづけた。反ユダヤ主義を標榜し、アイルランド出身の共和党上院議員ジョセフ・マッカーシーと親交を深めた。1950年代にマッカーシーが共産主義者やリベラリストを弾圧する赤狩り旋風を巻き起こしたときも民主党員でありながら公然と支持した。

息子たちには「人生は競争だ」と社会的勝者になることを叩き込んだ。海軍のパイロットだった長男を飛行機事故で亡くしてから次男のジョンに夢を託す。期待に応えたジョンはアイゼンハワー政権に代わる1960年の大統領選挙に民主党から出馬し、共和党のニクソンを破って当選した。

翌年、ジョンの大統領就任を見届けたジョセフは年末に脳梗塞の発作を起こして失語症と右半身不随の身となる。ジョンは1963年、テキサス州ダラスでパレード中に暗殺。弟のロバートも1968年、ロサンゼルスで遊説中に銃撃されて夭折した。ふたりの息子に先立たれ、悲痛な晩年を過ごしたジョセフは翌年11月に81歳で他界する。

彼が脳梗塞で倒れたのは一本の電話が引き金になったとケネディ家の伝記作家らが記している。ケネディ政権の花形として司法長官になったロバートは清新なイメージでマフィア撲滅を宣言した。ところがFBI長官フーバーから父ジョセフが大統領選でマフィアから秘密の政治献金を受けとっていたことやシカゴにおける票の操作を委ねていたことを知らされる。政権を揺るがしかねない父の裏工作に驚愕したロバートはジョセフに電話し、激烈な口調で兄や自分の努力を台なしにする悪行を罵ったという。

最愛の息子から良かれと思ってやったことを全否定されたジョセフが再起不能に陥るほどの衝撃を受けても不思議ではない。すべてを息子たちに捧げた父は皮肉にも息子たちによって父としてのすべてを失った。